

応用統計学会・日本計量生物学会主催 市民講演会のご案内

応用統計学会と日本計量生物学会の2013年度年会が2013年5月23日(木)から25日(土)に、パルセいいざか(福島市飯坂温泉観光会館)にて開催されます。つきましては、福島市民の多くの方々に、応用統計学と計量生物学とはどのようなものか、その社会的な意義と役割に関心を持っていただくため、5月25日午後に市民講演会を開催します。両学会会長の講演でもあり、ぜひ奮ってご参加お願いします。

日 時：2013年5月25日（土） 13:00～15:00

会 場：パルセいいざか（福島市飯坂温泉観光会館）

<http://www.paruse.jp/>

〒960-0201 福島県福島市飯坂町字筑前27-1 TEL 024-542-2121

参加費：無 料

主 催：応用統計学会 <http://www.applstat.gr.jp/>
日本計量生物学会 <http://www.biometrics.gr.jp/>
後 援：福島市(予定)，福島県，福島県教育委員会

プログラム

座長 會田 雅人（総務省統計局）

13:00～14:00 応用統計学会会長講演 川崎 茂（日本大学経済学部教授、元総務省統計局長）

『災害と統計 - 東日本大震災からの教訓』

東日本大震災と原子力発電所事故により、広範囲の地域に甚大な被害が発生し、今もなお約30万人の人が自宅を離れて生活しています。このような大災害からの復興を円滑に進めるには、正確な情報に基づいて対策を進めることができます。この講演では、大災害に当たって統計をどのように整備し活用すべきか、東日本大震災から得られる教訓について考えます。

14:00～15:00 日本計量生物学会会長講演 大橋 靖雄（東京大学大学院医学系研究科教授）

『がん予防と疫学研究』

疫学とは疾病発生や健康状態を集団として捉え、何が疾病発生のリスクとなるかを計量的に捉え、分析結果を予防につなげようとする科学です。ご存知の通り福島県では放射線の健康影響が問題となっていますが、最大の懸念はがん発生の増加です。どの程度の影響があるか、食事などの生活習慣の影響と比べるとどうかは疫学の観点からの評価が必要です。巷に氾濫する（しばしばいい加減な）健康情報の真贋を見極めるにも疫学の視点が必要です。疫学の観点から、がん予防についてわかっていることを紹介したいと思います。